

第70回記念広島平和美術展ニュース

[平和美術展開催概要]

【広島平和美術展の趣旨】 いつの時代においても戦争は文化の破壊者でした。核戦争がはじまれば、人類の破滅を意味します。芸術が人間のためである以上、私たちは芸術を愛し、戦争を否定し、戦争につながるすべての政策、企て、準備、実験などに反対します。特に広島に生きる私たちにとって、それは強い共通の願いです。8月6日を中心に集まり、作品を通して世界平和への願いを表わすために、総合美術展を開き、世界恒久平和を実現します。

1955.8



いけばな・泉 愛

会 期：2024年7月28日（日）～8月2日（金）

（いけばな：前期7月28日～30日、後期7月31日～8月2日）

開催時間：10：00～18：00

（ただし最終日8月2日のみ16:00閉場入場は15:30まで）

開催場所：広島県民文化センター：地下展示室

広島市中区大手町1-5-3（Tel. 082-245-2311）

平和の壁に あなたの花一輪を！

会 長 挨拶

この度、広島平和美術展は70回目を迎えることになりました。第1回展は、第1回原水爆禁止世界大会の関連行事として、平和記念館で開催されました。柿手春三、四國五郎、下村仁一、原開、福井芳郎、増田勉ら広島美術界をけん引した画家たちの努力によって開催した同展は、審査も賞もないアンデパンダン方式で絵画と彫刻170点が出品されました。そして柿手春三が初代会長に、四國五郎が事務局長を担い、出品者を会員とする広島平和美術協会を結成し、第2回展から写真やいけばな、デザインの分野も加えました。4回目からは書も加え、プロやアマチュアの垣根を超え、県内外、海外と交流し、より広く平和への意志を結集するものとして現在に至っています。ところで、美術展が70回も続くということは、祝賀ムードが高まるものですが、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う本展の趣旨を思うと、核兵器廃絶や戦争のない世界平和が70年の間まったく実現されていないということにもなり、祝賀よりもむしろ怒りと憂いをもって、この70回目を迎えなければならないでしょう。終わらないウクライナ・ロシアの戦闘、さらにイスラエル・パレスチナの紛争も続き、私たちの願いとはうらはらに、きな臭い匂いが世界を覆っています。70回を迎えた今こそ、平和美術展の原点に立ち返り、平和への意思を結集した美術展にしたいと思います。

広島平和美術協会・会長 福長 弘志

★主 催：広島平和美術協会

★後 援：広島県・広島県教育委員会／広島市・広島市教育委員会／（公財）広島平和文化センター／

（公財）ひろしま文化振興財団／（公財）広島市文化財団／中国新聞社／NHK広島放送局／中国放送／

広島テレビ／広島ホームテレビ／テレビ新広島／広島エフエム放送／NPOひろしまインターネット美術館

メッセージ

広島市長 松井一實



第70回広島平和美術展が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。昭和30年に美術作品を通して平和への願いを発信する目的で始まった本美術展は、今年で70回目という節目を迎えられました。この間、広島平和美術協会におかれましては、絵画、書、工芸、写真など様々な作品を通じて、核兵器廃絶と世界恒久平和への願いを多くの方に届けて来られました。こうした貴協会の活動は、「国際平和文化都市」を目指す本市が取り組んでいる「平和文化」の振興そのものであり、大変心強く思うとともに、関係者の皆様の長年にわたる熱意と御努力に対し、深く敬意を表します。美術を始めとする文化芸術は、言葉や国籍の違いを超えて感動を分かち合い、共感を生み出す力を持っています。是非とも多くの方々に本美術展に御来場いただき、平和への思いを共有する「平和文化」とともに、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」が広がっていくことを期待しています。終わりに、本美術展の御盛会と広島平和美術協会の今後ますますの御発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

メッセージ

長崎市長 鈴木 史朗



「第70回記念広島平和美術展」の開催にあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りします。

主催の皆様方におかれましては、長年にわたり、美術作品を通じて、被爆地から核兵器廃絶と世界恒久平和への願いを発信されておられることに、心より敬意を表します。

世界に目を向けると、長期化するウクライナ侵攻や中東における軍事衝突の深刻化により、核兵器使用のリスクが高まっており、核兵器を巡る国際情勢は混沌を極めています。

平和な日常は決して与えられるものではなく、私たち一人ひとりがつくっていくものです。平和のためにできることはたくさんあります。本美術展のように、美術作品を通して平和への思いを表現することもその一つですし、作品に触れて平和について考えることも、私たちにできることの一つです。本美術展にご来場の皆様の心の中に平和の種が蒔かれ、それが大きく育ち、「平和の文化」が世界中に広がることを祈念いたします。

「柿手春三と広島平和美術展」

三良坂平和美術館・館長 元泉園子

1955年、柿手春三46歳の時。四国五郎、下村仁一、増田勉らと 広島平和美術展を創設。第1回展に「夜の森」を出品。以後、毎年欠かさず出品を続け最後は、第36回展に81歳で「ヒバクの樹」（燃える 産業奨励館）を出品。これらの作品は、現在も三良坂平和美術館で紹介を続けている。

さて、最近柿手のご遺族から資料として譲り受けた中に、孫へ宛てた絵手紙が入っていた。そこには次のように書かれている。「雨が降り 霧がたちこめ 嵐が来ると 明日の日はお日様が出て暖かいだから嵐の時がんばれよ 三人の私の孫よ がんばれよ！！」

この言葉、(孫)を(次世代の人々)に置き換えるとどうだろう。まさに柿手から我々への応援メッセージではないか。広島平和美術展が、80回、90回、100回と平和を願って発展継続してゆくことを、きっと柿手は願っているだろう。

来年は柿手の33回忌。改めて「平和と芸術」について考えてみたいものである。

出品者の声

(絵画・千馬弘子)

広島平和美術展は、今年70周年を迎えます。戦争を否定し核兵器廃絶と世界恒久平和を願う趣旨に賛同した、多くの人々の愛に溢れた力強い作品が展示されている総合作品展です。

1955年8月に第1回展が開催され、海外や県内外からの出品、第二の被爆地である長崎との作品交流、総合作品展を維持するための展示会場の変更、第50回展記念画集発刊等々、様々なことを行ってきました。

私が1960年に広島に移り住み、見聞きした原爆の被害は、それまでに学んできたものをはるかに超えた残酷で悲惨なものでした。『8月6日のあの日、所用で中町まで出かけた母の帰りを毎日毎日門の前で待ち続けました。被爆50年を過ぎやっと心の整理ができました』と声を落として話してくれた広島の大切な友、その心の内を想うと未だに胸がつぶれる思いです、人間はこれほどの行為を起こすことができるのかと絶望しました。

そして8月に平和美術展が開催されていることを知り、1966年の第12回展に出品させていただきました。

未だに核兵器廃絶、世界恒久平和は道半ばです。国と国、人と人が手をつなぎ互いに敬愛し語り合うことがそれほど困難なのでしょうか。自由に自己表現できる世界は生きる喜びと力を与えてくれます。

8月6日に心からなる作品を御霊に捧げ、一日も早い核兵器廃絶と世界恒久平和が達成されますようにこの意義ある総合美術展に出品し続けたいと願っております。

(絵画・ガタロ)

本年2月、一森雅彦氏よりお手紙を頂いた。

昨年「被爆体験集」九万件を読んだのでその記念として機関紙「シャローム」(ヘブライ語で「平和であるよう」という意)に寄稿しましたので一報しますとのこと。

まず「被爆体験集」九万件をも読まれたことに驚愕しました。一森氏は学者でもなければ芸術家でもありません、名も無き一介の市井の人です。その人は毎日平和公園にある国立広島原爆死没者追悼平和記念館において、只々ひたすら被爆者9万件を読みつづけられたのです。その後平和公園をおとずれる子供連れの親子に原爆の実相を語り続けてこられたのです。折にふれ私も被爆者の声や言葉に耳をかたむけてきたつもりですが、余りのその悲惨、残虐に耐えられないのです。これがおよそ人間のやることかと思うと精神が耐ええぬのです。被爆者の声を聞くには覚悟と強い意志が必要です。一森さんは魂の人です、僕はその一森さんより魂を蒔かれた種子となるべく生きたいと思います。

(絵画・才東ハツカ)

私が広島平和美術展に初めて作品を出品したのは2022年、ウクライナ侵攻が本格的に始まった年です。私はテレビなどでその様子を見て胸を痛めましたが、平和や戦争をテーマにした作品を制作しようとは、最初はしませんでした。私が平和を思い作品を制作することは、果たして平和のために役立っているのだろうかと疑問に思っていたからです。そんな思いを抱えたまま、大学の教授に出品を勧められ、広島平和美術展に作品を出品しました。搬入を終え、会場に並んだ作品を鑑賞し、私はこう考えるようになりました。もし、この世の誰もが、それぞれの平和を思ったなら、そうなったらきっと世界が平和に近づいたと言えるのではないかと、そして、芸術家が平和や戦争をテーマに作品を制作するのはその一歩になるのではないかと。平和を思い作品を制作し、それを鑑賞しながら平和を語りあえば平和を望む思いの連鎖が生まれると思います。

広島平和美術展は平和への一歩を踏み出す場なのです。

第70回記念広島平和美術展作品募集のご案内

- 会期** 2024年7月28日(日)～8月2日(金) (6日間) 10時～18時
ただし、最終日は入場15時30分、16時00分閉場 **第68回平和美術展 会場風景**
- 会場** 広島県民文化センター地下展示室： 広島市中区大手町1-5-3 (Tel.082-245-2311)
- 種目** 絵画・彫刻・書・写真・いけばな・デザイン・工芸・インスタレーション 他
- 形式** アンデパンダン展 (無審査)
- 点数** 1種目1点 (作品裏面並びに箱に題名に氏名、連絡の取れる電話番号を明記する)
- サイズ** 絵画 S50号以内 (額縁は細縁、ガラス不可) : 書 (横 半切の1/3以内) : 写真 (1m×1m以内)
- 出品料** 1点につき **4,000円** (大学生は **2,000円**) , 高校生・県外・国外出品者は無料 (運送代は自己負担)
- 申込み** **6月20日(木)** 締切 (期日厳守)

所定の払込用紙にて申込み、出品料を納入して下さい。出品内容については、申込はがきに記入漏れがないようにお願いします。題名が記入されていない場合はキャプション及び出品者目録の題名部分は空白にさせていただきます。(申し込みはがきには切手を貼ってください。)
申込用紙のない方は、下記の取扱所に置いております。

★ 出品者の氏名と題名にはふりがなをつけて下さい

- 搬入** 7月27日(土) 10:00～12:00 **搬入** (時間厳守)
- 陳列** 7月27日(土) 13:00～皆さんできるだけ、**陳列作業に参加ご協力**ください
- 開会** 7月28日(日) 10:00～(オープニングセレモニー)
- 搬出** 8月2日(金) 16:00～18:00 の間に搬出
- 入場整理券** 一般300円(前売り200円), 小中高生, **被爆者の方は無料** (被爆者手帳提示)
出品者は**振込受領書を提示**してください
入場整理券が必要な方は**枚数と金額を記入し申込時に一緒に送金**してください

お問い合わせ ⇒事務局〒730-0016 広島市中区鞆町6-15-401 好永 良子方 Tel 080-3872-2768

★申込用紙 取扱所★

安芸美材	南区東雲	082-236-8111
小畑百花園	中区鞆町	082-221-3515
ギャラリー718	中区袋町	082-247-1010
ギャラリーG	中区上八丁堀	082-211-3260
木利画材	安芸区船越南	082-284-2077
古城園	中区本川町	082-234-2227
ピカソ画房	中区堀川町	082-249-3934
ブラック画材	中区鉄砲町	082-211-3322
西文明堂	中区袋町	082-247-9466



第69回平和美術展 オープニング